

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 26 年 7 月 10 日 (2014.7.10)

【公表番号】特表 2012-514236 (P2012-514236A)  
 【公表日】平成 24 年 6 月 21 日 (2012.6.21)  
 【年通号数】公開・登録公報 2012-024  
 【出願番号】特願 2011-544472 (P2011-544472)  
 【国際特許分類】

G 0 2 B 5/26 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

B 3 2 B 7/02 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 B 5/26

B 3 2 B 27/30 D

B 3 2 B 7/02 1 0 3

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 26 年 5 月 22 日 (2014.5.22)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 4 6  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【 0 0 4 6 】

屋外用途のために、耐候性はまた、光学スタックと多層光学フィルムの重要な特徴である。促進耐候性試験は、物品の性能を評価する 1 つの選択肢である。促進耐候性試験は、一般に、ASTM G - 155 「促進試験装置において実験室光源を使用して非金属材料を露光する標準的技法」に記載されたものと類似の技術を使用して多層光学フィルムに実行される。この開示による光学スタックは、実質的に紫外線安定性を有する。一実施形態において、実質的な紫外線安定性は、本明細書では、スキン層などの追加の非光学構造支持層を含む場合がある光学スタックが、ASTM G 155 - 05 a に記載された天候サイクルと反射モードで動作する D 65 光源とに晒されたときに、色、ヘーズ (haze) 及び透過率を実質的に変化させないことを意味する。「実質的に変化しない」は、ヘーズ % が、初期ヘーズ % と比較して 15、10、8、5、2、1.5、1、又は更には 0.5 以下の値しか増加せず、透過率が、初期透過 % と比較して 15、10、8、5、2、又は更には 1.5 以下の値しか減少せず、CIE L \* a \* b \* 色空間を使用して得られたデルタ b \* (ここで、b \* は、重合体フィルムの黄色度を評価するために使用されるパラメータである) は、初期デルタ b \* に対して 10、8、5、2、1、又は更には 0.5 以下の値しか増加しないことを意味する。一実施形態では、光学スタックは、6000 時間の暴露後に実質的に紫外線安定性である。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲  
 【訂正対象項目名】全文  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

光学スタックを有する多層光学フィルムを含む建築用物品であって、  
 前記光学スタックが、複数の第 1 の光学層と、前記複数の第 1 の光学層と繰り返し順序

で配置された複数の第 2 の光学層とを含み、

前記複数の光学層の少なくとも 1 つがフッ素重合体材料を含み、

前記第 1 の光学層又は前記第 2 の光学層が紫外線吸収化合物を含み、

前記光学スタックが紫外線安定性であり、前記紫外線安定性が、ASTM G 155 - 0 5 a に記載される天候サイクル及び反射モードで動作する D 6 5 光源に 6 0 0 0 時間晒されたときの前記光学スタックにおいて、

ヘーズ%が、初期ヘーズ%と比較して 1 5 以下の値しか増加せず、

透過率が、初期透過%と比較して 1 5 以下の値しか減少せず、

C I E L \* a \* b \* 色空間を使用して得られたデルタ b \* が、初期デルタ b \* に対して 1 0 以下の値しか増加しないことを意味する、

建築用物品。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の建築用物品を使用する方法であって、屋根、ファサード、壁、外殻、窓、天窓、アトリウム、又はこれらの組み合わせの建築に建築用物品を使用することを含む、方法。

【請求項 3】

第 1 の屈折率を有する第 1 の光学層と第 2 の屈折率を有する第 2 の光学層を交互にして、複数の層を含む光学スタックを構成する工程を含み、前記第 1 の屈折率が前記第 2 の屈折率と異なり、前記光学層の少なくとも 1 つがフッ素重合体材料を含み、前記光学スタックが紫外線安定性である、請求項 1 に記載の建築用物品を作成する、方法。